

現代随一の人気ジャズ・ヴァイブラフォン奏者！

ジョー・ロック [Joe Locke]

一見するとその名前の響きの如く、ロック・ミュージシャン、あるいは俳優のような渋い佇まいを感じさせるジョー・ロック。1983年に1stアルバム『Restless Dreams』をリリース以来、30作以上のリーダー・アルバムを発表し、サイドマン、プロデューサーとしても数多くの作品に関わっている現代随一の人気ジャズ・ヴァイブラフォン奏者だ。

今年の4月にジェフリー・キーザー (p) との双頭リーダー・バンド＝“ジョー・ロック/ジェフリー・キーザー・グループ”名義のアルバム『Signing』をリリースしたばかりのジョーに、新作のこと、メンバーのこと、日本のことなど気さくに話してもらった。アルバムも最高です！

【2012年5月 取材&文：加瀬正之】



photo by R. Andrew Lepley

●最新アルバム『Signing』は“ジョー・ロック/ジェフリー・キーザー・グループ”名義としては、2006年にリリースしたアルバム『Live in Seattle』以来ですね。この新作のテーマ/コンセプトについて聞かせて下さい。

『Signing』のコンセプトは、皆それぞれが直接コンタクトしよう、触れ合おうということを皆と一緒にしなければならないということ。我々人間は皆コミュニケーションを取ろうとお互いにサイン (Sign) を送っているんだ。ミュージシャンとして、それは我々ができる最も大切なことだと思うよ。

●ジャケットのデザインがとても印象的ですが、どのような考えや思いを込めているのですか？

このジャケットのアイデアは私自身と私たちの仲間の素晴らしいアート・ディレクター、ナジャ・ヴォン・マッソウ (Nadja von Massow) が思い付いたものなんだ。私が手話の手段でもある人間の手を思い浮かべて、それからナジャが手のひらに異なる「コミュニケーションのテーマ」として、とても創造的なデザインを施してくれたんだよ。ナジャは有能な画家でもあり、優れた才能のあるグラフィック・デザイナーでもあるんだ。このジャケットを見てもらえれば分かるように、とても芸術的だよ！

●レコーディングはいかがでしたか？ 何か特別なエピソードなどありますか？

特別なエピソードはないんだけど、素晴らしい仲間たちとのとても楽しいひと時だったという思い出だけが残っている。あと、新しい音楽に対する皆の吸収力の速さに驚かされたよ。ほとんどの曲はワンテイクで完成したんだ。

●あなたのオリジナル4曲とジェフリー作の2曲に、ジョン・コルトレーンの「Naima」とイモーゼン・ヒープの「Hide And Seek」というカバー2曲を収録していますね。

「Naima」の私のアレンジは元々 Scottish National Jazz Orchestra のために書かれたもので、このカルテットで演ってみたらきっと素晴らしいだろうと思ったんだ。仕上がりにはとても満足している。「Hide And Seek」はジェフリーと私が共に大好きなイモーゼン・ヒープが書いた美しい曲で、彼女のオリジナル・ヴァージョンはアカペラなんだ。ジェフリーのアレンジは基本的にそのオリジナルをもとにしているんだけど、異なる楽器編成によってまた違ったサウンドを生み出している。

●あなたのオリジナル4曲について聞かせて下さい。

「Signing」は接触しようとする、コンタクトすること、コミュニケーション (単純と複雑共に) の衰退と氾濫について、あまり考え過ぎずに希望を持って感じられる方法・手段を表現した曲なんだ。「The Lost Lenore」はエドガー・アラン・ポーの超自然的な詩として知られる『大鴉 (おおがらす)』の中で書いている主人公の恋人についての曲なんだ。彼女はどんな人物だったんだろうと思って、その後私とジェフリーとティム・ガーランドとのトリオ “Storms/Nocturnes” のために書いたんだ。このヴァージョンでは、彼女はもう少し都会的な感じになっているよ。「Her Sanctuary」も元々 “Storms/Nocturnes” でレコーディングされた曲なんだけど、カルテットによって全く異なった仕上がりにしている。この曲に対するインスピレーションは私の友人のスー・シラーと彼女の美しい丘の上の隠れ家から感じたんだ。「This Is Just To Say」のタイトルはウィリアム・カルロス・ウィリアムズの詩から付けたんだ。

●レコーディングで苦労した曲などありますか？

全て苦労なく上手いって言うといいと思うよ。メンバー同士のコミュニケーションと理解がとても上手いってからね。それに何となくともジェフリー、テレオン、マイクの3人が信じられないくらい素晴らしいミュージシャンだからね！

●日本のファンのためにメンバーを紹介して下さい。

ジェフリー・キーザーは世界の中でも素晴らしいピアニストのひとりで、17歳の時にアート・ブレイキーのバンドでプロとしてのキャリアをスタートさせたんだ。彼はジャズ・シーンにおけるほとんど全てのメジャーなミュージシャンたちと演奏していて、恐るべき作曲家でもある。テレオン・ガリーは若い世代の演奏家たちから手本とされている新しいスタイルのドラムを牽引していて、ダイアン・リーヴス、ステフォン・ハリス、カート・エリング、ローリン・ヒル、MC コモン等との共演でも知られている。マイク・ポープはデイヴィッド・サンボーン、チック・コリア、マイク・スターン等と共演してきて、エレクトリック・ベースとアコースティック・ベースの両方で同等の才能を持った数少ないベーシストのひとりなんだ。彼はピアノの腕前も素晴らしいんだよ。

●メインで使用している楽器について教えて下さい。

今まさにメーカー／会社を変更している過程なんだ。だから、この質問はもう少し待って欲しいんだ。申し訳ない！

●あなたは最初にイーストマン音楽院でパーカッションを始めたようですが、ヴァイブラフォンに移行した経緯について教えて下さい。

私は幼い頃にドラムとパーカッションとピアノを学んで、13歳の時にヴァイブラフォンと出会ったんだ。それで直ぐに「この世で愛するただひとつの楽器」というようにすっかり魅せられてしまったんだよ（笑）。

●あなたは以前ビースティ・ボーイズと共演していますが、この5月にMCA / アダム・ヤウクがガンで亡くなってしまいましたね…。彼等との特別な思い出はありますか？

ビースティ・ボーイズのアルバム『ハロー・ナスティ』で共演したんだけど、彼等はとても素晴らしく、ソウルフルで音楽的な知識も豊富で、とても楽しかったよ。アダムの訃報は本当に悲しかった…。

●日本の印象や影響された日本の作家、音楽、映画、街などについて聞かせて下さい。

書籍では村上春樹とカズオ・イシグロの作品、音楽では武満徹のオーケストラが大好きだね。あと、日野皓正は私の大好きなジャズ・ミュージシャンのひとりなんだ。勿論、黒沢明の映画には影響を受けたよ。それと、エディ・ヘンダーソン、ロン・カーター、ジェフリー・キーザーとの日本ツアーでは素晴らしい体験をした。日本中の美しくリラックスできる様々な温泉にも訪れたし、奈良のお寺も素晴らしい思い出として残っているよ。東京や大阪などの大都市を訪れることも好きだね。私にとって日本の皆の前で私の音楽を演奏することはいつも特別で、観客は皆本当にジャズを知っているし、私たちが素晴らしい演奏をすると（いつもそうであると信じているけど！）ミュージシャンに最高のエネルギーを与えてくれるんだ。

●あなたのように素晴らしいヴァイブラフォン奏者になるこ



photo by Alexandros Lambrovassilis

とを夢見ている若い人たちにアドバイスを頂けますか？

練習すること、聴くこと、それから更に練習することさ！

●あなたの夢は何ですか？

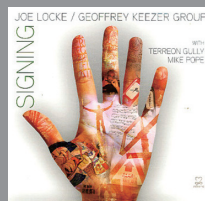
私の音楽を通して、聴き手の人たちの魂と結びつくことができるようになること。そして、そうすることで結びつきが生まれて「私のストーリーはあなたのストーリー」「私たちは皆楽しみと悲しみといった同じ感情を共有している」「私たちは人生を共に歩んでいる」みたいに言ってもらえるようになることだね。

●最後に『The Walker's』読者にメッセージをお願いします。

我々の音楽をサポートしてくれてありがとう。私の音楽だけでなく、美しいものを創造し与えてくれる全ての素晴らしいミュージシャンたちの音楽をサポートしてくれてありがとう。全てあなたたちのおかげで、あなたたちの存在なくしては意味がない。感謝しています。

【ジョー・ロック オフィシャル・ウェブサイト】
<http://www.joelocke.com/>

ジョー・ロック / ジェフリー・キーザー・グループの最新作！



Signing
Joe Locke / Geoffrey Keezer Group

Motema Music : MTM-85
(Import CD) Now On Sales!
【 * P11 にレビュー掲載！ 】